

大学2年の夏休み、約3週間の研修を通して、私は日本で過ごしているだけでは得ることのできない数多くの貴重な体験をした。何もかもが初めてで戸惑うことも多かったが、今研修が終わって振り返ってみると、どれもかけがえのない経験になったと思える。

私はこのプログラムへの参加を決めるまで海外志向などは全くなかった。というのも、中学校から今までずっと英語に対して苦手意識をもっていたからだ。ただ、同時に英語話者への憧れや、英語のコンテンツに触れる機会があり、英語を話せるようになりたいとも思っていた。そのためか、今回の留学の案内が来た時に自分でも驚くほどすぐに参加を決めていた。私が参加を決めた理由としては、自身の語学力の向上はもちろん前提にあったが、それ以上に時間がある大学生のうちに様々な経験をしたという思いからであった。その思い通り、この留学を通して私は様々な経験をすることができた。カナダに行くこと、ホームステイをすること、現地の食事を食べること、慣れない生活スタイルに合わせることに、海外の大学に通うこと、知らない場所に自力でたどり着くこと、わからないときには拙い英語で質問すること、などと挙げていけばきりが無いが、これだけでも充分多くの経験をしたことが伝わるだろう。

しかし、先述したように私は英語に対して強い苦手意識があったため、留学は決して楽しいばかりのものではなかった。ホームステイ先に着いてからすぐ1日中英語の生活が始まるが、最初のうちは聞き取れない、話せないことばかりで心が折れそうになった。特に私のホストファミリーの英語はかなり聞き取りやすかったのも、それすらも聞き取れないことが申し訳なく、またそんな自分に嫌気がさした。そして私は自らコミュニケーションを取ることを放棄しかけていた。学校は、周りには同じ日本人の学生も多く、少し安心できる環境だった。ただ、ここでも慣れない英語に加えて授業で取り扱う内容はカナダの歴史、文化、民族、現代の社会問題などと難しい内容ばかり。その上、座学ではなく、ディスカッションかグループ発表。そのどちらもが終わってほっとしたのも束の間、今度はリスニングテスト、と本当に心が折れそうな毎日を送っていた。

それでも、大学に通っていくうちに気付けたこともある。それは、海外の教育の在り方だ。日本で教育を受けてきたからこそ多くの差があることに気付けた。例えば、発表した時に否定しないことである。今回授業を受けて明確な正解、不正解があったのはリスニングテストの時くらいだろう。それくらい、間違いという概念はない授業スタイルであった。例え先生の思った通りの回答ではなかったとしても、まずは受容し、それから発展させてより良い回答に仕上げる、という形式はなかなか日本では実践しきれていないような気がして感動した。また、抽象的な内容を考える際にイラストを用いて発表することも面白かった。各々が個性的なイラストで仕上げているととても見ごたえのある発表になった。他にもあるシチュエーションについてのロールプレイをしたが、文法の間違いなどを気にせずどんどん自分の言葉で伝えようとする姿はお互いに良い影響を及ぼしあっていたと思う。このような海外ならではの教育を受けることができたことは、非常に貴重であったと思う。

これらの経験を通して、私の英語力が格段に上がることは無かった。どんなに質の良い教育を受けても積極性が無ければなかなか身につかないものだ。それでも、最後に勇気を出してホストマザーと会話を試みたことは良い思い出である。この頃には最初より幾分か聞き取れるようになっていたので、私も頑張って拙い英語で会話をしようとしてみた。ホストマザーはそんな私の英語を理解してくれた上に、あなたはよく喋れているから大丈夫よ、またここに来て勉強したいのなら是非うちに来て、と言ってくれた。この言葉を聞いたとき、もう既に帰国の2日前ではあったが、私は勇気を出して会話してみても良かったと思えた。

短い期間で楽しい思い出も沢山したが、大変なことも多かった。今回の留学を通して改めて、間違いを恐れずにどんどん話していくことが英語上達の一番の近道であるということを実感した。